

じゃりみち

……仮設支援情報……



第14号 発行日 1996. 3. 21

阪神大震災地元NGO救援連絡会議

仮設住宅支援連絡会

TEL: 078-362-5951 / FAX: 078-362-5957

E-mail: ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

口座番号: 01180-6-68556 (郵便振替)

全体会のお知らせ

ということで次回の全体会は3月27日です。場所は毎日新聞神戸ビル3階事務局隣にて。
時間は18:00~20:00です。

懇親会第4弾!! 場所は「よろずや」20:00~

全体会

仮設住宅支援連絡会は3月末に長田区に移転します。

(詳しくは3月末のじゃり号外を見てくださいね!)

報告

昨年の95年12月6日に提出しました仮設住宅支援連絡会の事業概要の中に「7. 今後の方向性」とあり、「1996年3月までは阪神大震災地元NGO救援連絡会議の分科会として活動し、1996年4月からは新たな団体として活動を継続する」と明記しています。これを受けて、今年1月から4度の全体会で話し合ってきた結果、以下のように名称変更を含め、連絡会としての事業概要及び事業内容について全員の拍手をもって確認をしました。

1996年度 仮設住宅支援連絡会事業方針

1996年3月13日

名称について

阪神・淡路大震災「仮設」支援NGO連絡会 (略称: 仮設NGO)

新たな事業として…

※解釈については村井私信参照

<共同プロジェクト>

ボランティア団体が行っている活動の内、連絡会としてより積極的に活動を支援するために、ボランティア団体と連絡会が共同でプロジェクトを実施するもの。

・共同プロジェクト実施において連絡会は可能な限りスタッフを派遣し、必要に応じて活動費を提供する。

一方、ボランティア団体は事業の進捗状況や実施結果を必要に応じて連絡会に報告する。

(ex: ふれあいセンターでのコミュニティづくり・移送サービス・被災地とのネットワーク(ツアー)・訪問看護・心のケア)

<情報の収集・整理・発信>

・発信ツールの作成の内、仮設住宅の学習ハンドブック(5千部)、じゃりみち縮刷版の作成。

<ネットワーク>

様々なネットワーク体制(被災地内、被災地外、被災地NGOを支援する被災地外の後方支援)を確立させ、活動を円滑に進める。

①被災地内でのボランティア団体間のネットワーク 連絡会全体会の開催(毎月1回、必要に応じて臨時開催)・必要に応じて連絡会以外の団体との連携。(ex 5月11日開催のボランティアフォーラムへの開催協力、神戸市各区や神戸市外のネットワークとの連携、会議への参加) また必要に応じて被災者団体との連携をとる。

②被災地内外のネットワーク 従来の全国キャラバンを96年度も継続して実施する。(事業内容は従来通り)・市外、県外被災者ネットワークと連携して事態把握を行う。

<ボランティアコーディネート>

被災地内外に問わずボランティアに関する受け入れ、研修プログラムを作成しボランティアコーディネートを行う。

①ボランティア募集 被災地内外からボランティア募集を行い、人手不足の団体に派遣する。

②研修プログラム実施 ボランティア研修プログラムを作成し被災地外の団体・個人を受け入れ、まだ終わっていない被災地の状況を伝える。実施回数: 年4回(1回につき2泊3日程度)

<提言(行政との折衝)>

個人のボランティア団体では実現しにくい様なことを提言としてまとめ、中間組織として行政機関に積極的に働きかける。

①必要に応じて専門部会を設置し、専門的な立場から被災地に於ける現状をまとめ、提言活動を行う。具体的には福祉・医療専門部会を立ち上げる。(メンバーは5~6人。月1回実施)

<その他>

募金活動(募金箱の作成)

以上

(注: これら以外で前年度からの引き続き行っていく事業については省略してあります。)



1996年度 阪神・淡路大震災「仮設」支援NGO連絡会事業指針（案）

阪神・淡路大震災から1年余りが過ぎ、被災者の窮状も限界にきているにも関わらず、行政機関は被災者の実状にあった救済策を何一つ施そうとしません。一方あまりにも多くの課題が山積している中、私たち支援をする側は改めて被災者への関わり方を問い直さなければなりません。

家族を、職を、住まいをなくした被災者の心の奥に残った傷は1年や2年で癒されないことを理解し、関わる側の私たちは、身の丈にあった、それでいて確実に長い救援活動を継続していかなければなりません。さらに外国人・障害者・高齢者・女性・子供は社会的弱者ではなく、健康者も含めて各々が「個性」とあるという視点を持つ中で、うまく間合いを取りながら「共生」・「共創」していくことのできるコミュニティ作りを目指し、被災者の様々な問題を解決していきたいと考えております。

被災地での様々な問題が今回の震災によって全て浮かび上がってきたのですが、そのことは「仮設」に関わってきた中で見えてきたことでもあります。また現状として49,681戸の仮設住宅に住む約8万人の被災者のほとんどが、未だ仮設住宅から行く宛もなくという現状や、60人を越える仮設住宅での孤独死の存在等を考えると、当面「仮設」にこだわる必要があると考えています。もちろん、「仮設」に関わってきたことで見えてきた在宅、あるいは県外被災者の問題も考えていかなければなりません。

このような視点を原点に、当面私たちがなすべきこととして、名称を『阪神・淡路大震災「仮設」支援NGO連絡会（略称：仮設NGO）』と改め、1996年度の事業概要および事業内容を以上に掲げます。

救援活動が1年を過ぎ長期化に向かう中で、各団体の活動資金も枯渇し、活動の継続を断念せざるを得ない団体も出てきております。被災地の様々な課題を目前にし、救援活動が低迷していくことは避けられなければなりません。

行政からは私たち救援する側の担い手に対し、公的な援助は一切ないため、自助努力で資金調達をしなければなりません。

震災関連の報道が日に日に薄れていく中、厳しい状況ではありますが、だからこそお互いが助け合い、支えあって被災者の生活再建のためにサポートをすべき救援活動を継続していきたいと考えています。

文責：村井 雅清

事務局から

注：さうではありません！

冬ふとん上下60組（クリーニング済み）があります。事務局山田から小島まで。

イベント情報

★がんばろや神戸！フェスティバル（無料）
3月28日（木）ハーバーランド・イグアードン11:00～18:00

◆震災復興祈願 聲明&三波春夫ショー（1800名御招待）
申込みが多い場合、仮設住宅にお住まいの方を優先します。
問い合わせ：078-341-3468 聲明&三波春夫ショー係り



じゃりの一口めも

春季療法で冬の間の気の滞りでたまった体内の老廃物を浄化しましょう！

<キャベツの春季療法>

生の大きい葉2枚を1リットルのお湯で煎じます。
これを1日ティーカップ5杯、1週間続けます。肝硬変や腸の病気にもよい浄化剤になります。

<タマネギ春季療法>

1リットルのお湯に赤タマネギ2個を薄切りにしたものを入れ、10分弱浸し、この液体を全部飲みます。「良薬は口に苦し」・・・試してみてください。

♥華麗なる車椅子ダンス（無料）

3月23日（土）西神戸YMCA体育館
13:00～15:00
問い合わせ：078-671-1442 ちびくろ

◆週末がう

3月23日（土）13:00～15:30 西区糺台仮設訪問
3月24日（日）9:00集合（西神南駅）西区西神南
第1仮設吹き出し

★第6回被災地障害者センター 全体会議
3月30日（土）14:00～ 兵庫県教育会館
問い合わせ：078-531-9511

< 仮設は今... >

東灘区編



2月18日、東灘区で一番遅れて住吉仮設に、ふれあいセンターがオープンした。建設時期が早くそれだけ高齢者の入居率が高い。東灘区の中心部で比較的交通の便のよい仮設であるうえ、従来より地元と他地区のボランティアが出入りして支援を受け入れやすいという、言わばボランティアの草刈り場的仮設だった。

ふれあいセンターで初めての炊き出しイベントには、豚汁・焼きそばなど400食を仮設内は勿論、周辺住民にもふるまった。そして、3月17日に行った第2回目の炊き出し（バラ寿司・ぜんざい）には殆ど自力で動きはじめた。

奇妙な事に「外部支援が多いほど依存体質が出来、自立が遅れる」というケースと「高齢仮設でもやる気が芽生えたと見違える様になる」ということをよく聞くが、ここの仮設住宅にはこの両方のケースがあったように思える。

最近、周辺地区の自治会・民生・ボランティアのネットワークが比較的うまく作動しはじめた。特にボランティア側では、この仮設を通じての活動で小さなボランティアが連携し、互いの不足をカバーしあう協力が始まりつつある。こうした動きは東灘区の仮設の高齢障害者の通院介助の運転手・車不足を相互協力でカバーしあうボランティアにも現れはじめ、ボランティアの縄張り意識を排除していこうという動きにも発展しつつある。また一方で、ふれあいセンター・自治会どうしの相互連携は東灘区でも始まっており、誰かのリーダーシップによる画一的連携でなく、独自の視点を持ちながら、まず、指向性の合う他地区のふれあいセンター・自治会との連携を進めていこうとする動きもある。そして、民生委員も動き出し、友愛訪問チームと共に仮設の安否確認をやっている。

それぞれの動きは多様であるが、自立に向けて確実なステップを歩みつつある。

復興と言えば、空港建設や中心街の復興ばかりが取り上げられている。しかし、真の復興とは、被災者一人一人の住宅生活基盤を確立することであり、それが確立されないようなら真の被災地復興はありえない。

わかちあい・阪神 殿本 弘

ガレキは走る

(全国キャラバン日程表)



運転手・参加者
募集中！！

3/22	熊本県	青年会館	ガレキ写真展	(村井・ひかる)
3/23	熊本県	水俣市	ガレキ写真展	(村井・ひかる)
3/24	鹿児島県	鹿児島市 鴨池運動公園	ガレキ写真展	(村井・ひかる)
3/29	福島県	いわき市文化センター(18:30~20:30)	講演会・写真展	(石井)
3/30	福島県	会津若松市	講演会	(石井)
3/31	福島県	郡山市	講演会・写真展	(石井)
3/31	福島県	二本松市	講演会	(石井)
4/6	神奈川県	葉山町	講演会	(中溝)
4/20	宮城県	仙台市戦災復興記念会館(18:00~)	ガレキ写真展	(石井)
4/21	宮城県	仙台市 プラッツ K (9:00~)	討論会	(石井)

全国キャラバンin島根報告

(ちびくろ救援ぐるうぶ島根支部・吾郷)

震災から1年目の1月17日を過ぎてからというもの、メディアによる震災に関する報道がめっきり、本当にめっきり減りました。ある程度予期していたものの、正直いってここまで急速に冷めゆくとは思っていませんでした。気になりながらも、被災地の状況が全く聞こえてこないのです。そんな時期に、神戸から来てくださり、生の声で「被災地の声」を聞く機会をもてたことは意義深いことでした。

島根は全国一の過疎・高齢県です。去年1年間の孤独死は62人、独居老人は毎年1000人増えています(県民人口の比率からすればかなりの数字です)。また、県民の賛成わずか21%のなか、建前「農業利用」、本音「他用途利用」で、中海の干拓が強行されようとしています。知事や農水省、経済界の無責任体質ともたれあいにより、自然が破壊され、住民の意思が無視されようとしているのです。これは、島根で起こっている問題ですが、目先の利益にとらわれて、経済優先で、「人が人として生きる」ということに目が向けられていない、日本の「貧しさ」が問題で、これは被災地で、いまだ震災が終わらないことに共通することだと感じています。

被災された方々が、声をあげてゆく元気を取り戻すのには、まだまだ時間がかかるでしょう。でも、「声にならない声」に耳を傾け続け、出来ることをしていきたいと思えます。

今回のキャラバンに、島根で集まってくれた方々は、それぞれにしっかりと、何かを感じてくれたようです。参加者の人数は確かに少なかったですが、ちよびくろ「忘れものをした感触」が残るのもまた、次に何かを行おうとする活力となります。まだまだ、一緒にがんばりましょう。ぼちぼち、ね。